ONO SOKKI

「空間の音の響き」と「プロダクトの音づくり」（前編）

講演

概要

「音の基礎」や「音質評価」などの技術的な話は、別のセミナーに譲り、皆様のお仕事とは直結しないかもしれない話がメインになります。裏面のプログラムを御覧ください。率直に言ってすぐに役立つ情報はありません。でも、飲み屋のうんちく話のネタには確実になります。

まず、最近の音の話題を、イントロダクションとしてお話しし、われわれ日本人の音感覚は、他の民族と違うのか？という問いに少しだけお答えします。今回の話の中心は「響き」です。「響き」の量的な制御に対するアンチテーゼとして、また「響き」の質がもたらす心理作用について。プロダクトの音づくりの話もします。

2018年 7月20日 金 13:00−17:00

場　所	**株式会社 小野測器　本社・ソフトウェア開発センター　9階 講演室** 神奈川県横浜市港北区新横浜３－９－３
定　員	50 名
参加費	無 料
ご持参いただくもの	名刺、筆記用具

◆対象者◆

・特に予備知識は必要ありません。音に興味のある人ならどなたでも。

◆講演のポイント◆

音は、サインエンスから、エンジニアリング、デザイン、アートまで、幅広い領域で大変重要な役割を果たしています。しかし、あまりに身近にありすぎるために、音の価値に気づく機会が非日常化（コンサートホールや高級オーディオなど）しています。

逆に音の問題は「騒音」としてネガティブに捉えられます。過去数十年、工業化と並行して表出した甚大な騒音問題は、技術進化により対策され、日本では、幹線道路周辺の一部の地域を除けば、静かな環境が実現できています。また、EVなど駆動源が機械から電気に変わるという劇的な変化に限らず、電気製品やOA機器等も大変静かになりプロダクトの静音化も進みました。

しかし、これで問題が解決したわけではありません。静音化が進むと、今度は、これまで気づかなかった異音や微かな音が気になるという、新たな問題が浮上しました。音の問題は、際限がありません。音は、そもそも意味を持ち、質（音色）があり、他の音との関係や場の文脈に左右されます。計測器で測れる「量」は、音の情報のほんの一部であると認識すべきです。

本講演では、聴講いただく皆様が、一旦実務から離れ、音の価値を再認識いただくことで、日頃抱えている課題に対して、考えるヒントを得ていただきたいという思いでプログラムしました。昨年11月にも「音でプロダクトと空間を価値化する」というタイトルで半日の講演をさせていただきました。趣旨は変わりませんが、昨年は盛り込みすぎというご指摘もありましたので、今年は2回にわけて実施します。内容もできるだけ昨年とダブらないように新しい内容を入れる予定です。

何度も言いますが、すぐに役立つ情報をご提供するセミナーではありません。音の本質を思考し、価値を再定義して、より深みのあるプロダクトの音づくりや、成熟した空間の音環境づくりに、少し先の将来役に立つかもしれない話をするという企画です。金曜の午後、早めの週末のつもりでお越しいただければ幸いです。

お問い合せ

株式会社 小野測器　セミナー統括グループ
円城寺（ｴﾝｼﾞｮｳｼﾞ）／　笹本（ｻｻﾓﾄ）
TEL：045-476-9711
FAX：045-470-7243